

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000138		
法人名	株式会社 ラ・サルテー		
事業所名	グループホーム よろこび(A棟)		
所在地	〒028-5641 岩手県下閉伊郡岩泉町門字水上29-19		
自己評価作成日	令和2年9月4日	評価結果市町村受理日	令和2年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との結びつきを大切にして、利用者様、家族様との信頼関係を築きながら、家庭的な雰囲気の中、穏やかに笑顔でその人らしく安心して暮らしていけるよう、スタッフの持っている個々の力を集結し、チームワークで利用者様を支援していけるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月30日

事業所は、岩泉町西部の山間部にあつて豊かな自然の中に住宅が点在する地域に位置する、開所4年目を迎えた2ユニットのグループホームである。「穏やかにその方らしい毎日を笑顔で暮らせるよう寄り添う」「家族や地域との結びつきを大切にした開かれたホーム」を理念に掲げ、職員間で共有しながら、家庭的雰囲気の下で利用者様に寄り添った支援を行っている。家族からの苦情を報告書としてまとめ、運営推進会議の委員の助言を受けるとともに、職員間で話し合い、運営や介護サービスの改善に活かしている。地域の100世帯に回覧板を活用して広報誌を届け、地域の理解と支援を頂いている。昨年敷地内に別棟を新設し、地域福祉の拠点として地域住民の交流の場として活用し、災害時の避難場所にもなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時に職員全員で考えた理念を常に見える場所に提示し、実践できるよう努めている。	職員で定めた理念を職員会議等を通じて共有するとともに、家族の苦情を運営推進会議へ報告して理念を再確認し、職員会議で慣れ合い、言葉遣い、家族との食い違いなどを検討し、日々の介護サービスの提供に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や事業所に広報誌を配布して情報を発信したり地元スーパーへの買い物や散髪などを通して交流している。	広報誌を地区の100世帯に回覧板を使ってお届けし、事業所の様子などをお知らせしている。地域の方々からは散歩の際に声を掛けていただき、野菜や花を、お寺からもお菓子や果物などの差し入れがある。コロナ禍で多くの行事を見合わせているが、これから認知症カフェなどを開催出来ないか、検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において地域の推進委員の方々からアドバイスや意見をいただき、地区の駐在所とも普段から相談や情報交換をして理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や困難事例、苦情などの報告に意見をいただき、より良いサービス向上へつなげるよう努めている。	委員は地区代表に加え、老人クラブ、民生委員、消防関係者、更にゲストに駐在所の所長をお願いし、様々な助言や提案をいただいている。苦情対応も含め、運営や介護サービスの改善、向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿支援室、地域包括支援センターと、顔の見える関係を築き、常に相談や情報提供をしている。	運営推進会議の委員として地域包括支援センターから出席いただき、助言や指導をいただいているほか、説明会や研修会、ケア会議に職員を派遣し、知識や技術に向上に活かしている。各種介護情報等は、通知文書や広報のほか情報端末でも入手している。必要に応じ、感染症の対策や関連用品手配の指導、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にネットで動画を取り入れたり、業務の中で気づいたことはミーティングに取り上げ話し合い、適正化委員会の内容は回覧し、身体拘束しないケア努めている。	身体拘束に関する指針を定め、委員会を設置し職員4、5名が参加して3か月毎に開催し、併せて行う研修会では職員に身体拘束廃止を徹底している。スピーチロックについては、利用者への言葉遣いに限らず、職員間のことも相互に注意しあっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	家族からの苦情相談を基に、言動には十分注意するよう話し合い、虐待の疑いがあれば速やかに確認し話し合い、再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加するよう調整中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解してもらえるようしっかり説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に家族から意見をいただいたり、遠方にいる家族には広報誌やお写真と一緒に情報を伝えている。家族からは電話連絡や手紙をいただき、利用者のケアに生かし運営に反映するよう努めている。	広報誌で事業所の様子を家族に知らせており、面会時に意見や要望を聴き取っている。花や野菜の栽培、理美容院利用、買い物などの要望には、日々の生活の中で対応している。職員の対応について、家族から意見が出されたが、運営推進会議や職員会議で話し合って改善することが出来た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングには代表者も参加し、職員からの提案や意見を聞き、さらに各棟の管理者と話し合い運営に反映させている。	職員会議や申し送りノートを通じ、職員の提案等を把握して業務の改善に繋げているほか、職員との個人面談を行っている。勤務条件の改善や研修参加、資格取得などの支援を行い、職員の知識や技術の向上に繋げている。気軽に何でも話し合える職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は必要な場合は個々の面接を行い、本人の意見をしっかり確認し環境、条件の整備に努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの希望や必要性に応じて研修を受けられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は交流の機会が少ないが、感染対策、相談など、情報交換は常に行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を基に本人とコミュニケーションをとりながら、本人の心身の状態に合わせたケアができるよう職員間で話し合い、信頼関係を築いていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、相談の際に、家族の心情を察し、不安な事や要望をしっかりと聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援は何か、本人ができることは何かをスタッフ間で話し合い、職員間で情報共有してケアを統一していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身の状態に合わせて、その人らしさを大切にし、家族の一員と感じてもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や情報を常に行ない、家族とともに支えていけるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が行きつけの美容院、商店に出かけたり、散歩で顔見知りの地域の人と会話を楽しんだりしている。	馴染みの美容院の利用や商店での買物、親族の法事参加、地域の市やお祭り、歳末の助け合いなど、従来の暮らしを大切にしたい支援を行っている。地域の方が入居されている同じ地域の方同士の交流も見られる。住民の方により、単独で事業所の外に出た利用者を見守り、誘導していただくなどの、新たな関係が出来てきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の仲介役となり交流できるよう努め、孤立しないよう見守り声かけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話での相談があれば支援できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いや希望を傾聴し、職員間で共有している。困難な場合は本人の状態を観察し、その人に合わせたケアに努めている。	居室担当を置き、利用者に寄り添って一人一人の思いのきめ細やかな把握に努め、お手伝いや散歩、投薬、居室の整理、仏壇への供物など、様々な要望を聴き取り、利用者の意向に沿った対応を行っている。言葉での意志表示が乏しい方には、意識して声掛けし表情や動作から意向等を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、入所まで関わっていた関係者からの情報を基に生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者本人の残存能力を見極め、変化があれば状態を把握するよう努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスでモニタリングに基づいて話し合い計画作成に反映している。計画の内容は家族の同意を得ている。	毎月のカンファレンスで目標に関するモニタリングを行い、3か月毎に介護計画を見直している。目標達成状況の確認はケアマネが行い、電話等で聴き取った家族の意見等も反映させて計画を作成している。面会の際に家族に内容を説明しているほか、遠方の家族には、計画を送付し同意をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録、申し送りノートに記入し職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急受診の対応や家族の事情に合わせ、薬局に薬をとりに行くなど柔軟に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の訪問美容室を利用したり、ボランティア団体の踊りの会の訪問をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の事情や状況に合わせ、送迎や診察券を窓口に出したり、主治医への相談など、本人が適切な医療を受けられるよう事業所として柔軟に対応している。	今年から協力医が訪問診療で来所することになり、殆どの方がかかりつけ医として受診している。家族が同行して受診する場合は、情報提供書でホームでの様子を医師に届け、受診後にその結果を記録している。インフルエンザ予防接種は、訪問診療の医師が来所して行う予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの状態や気づきを看護師へ報告、相談し、医師、かかりつけ薬剤師との連携をとり支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当の病棟看護師、相談員と常に情報提供や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所でできることを十分に説明し、理解をいただいている。事業所で困難になった場合は家族に特養施設等への申請を相談し、他事業所への情報提供、情報交換をして、共に支援している。	重度化した場合の対応は、入居時に家族等に説明し、了承を得ている。重度化した場合には改めて家族に説明し、家族の意向に沿って病院や特養に移送している。看取りの経験はないが、これまでも、かかりつけ医の指示や訪問看護ステーションの看護師の助言を得て、ターミナルケアの対応を行い、職員への研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	令和元年11月15日救急講習会実施した。これからも計画して実施していく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を行い、避難場所の確認をした。今年度は消防の立ち合いが困難であるため、自施設で「防災会議」を開き、防災士中心の災害自主避難訓練を計画している。地域の防災訓練は行われていない。	火災想定や夜間想定避難訓練を実施している。ハザードマップ上で災害リスクはなく、事業所は発災時の地区民の避難施設に指定され、利用者も事業所での待機を想定している。大雨の際には、近くの沢の水位や土砂に注意している。防災士の資格を職員3名が取得し、AED訓練も行っている。食料、水、灯油ストーブ、ガスコンロ等を備蓄している。	ハザードマップ上で災害リスクはなく、町から防災ラジオが配付され近隣住民との協力体制も整っている。町は地域との防災協定の締結を計画しており、事業所としても地域との協定締結を進められるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の一人ひとりの心身状態に合わせ、人格を尊重した声かけをするように努めている。	「穏やかにその方らしい毎日を笑顔で暮らせるよう寄り添う」とする理念の具体化に向け、人格を尊重したケアを実践し、利用者一人一人が心地良く和やかに生活できるよう努めている。羞恥心に配慮し、入浴やトイレ時の介助や居室入室時のノックや声かけ、食食用テーブルでの席の配慮など、利用者の心情に沿って対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の好きな髪形や着たい服の希望や思いに寄り添い、満足してもらえるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が仏壇に毎朝御飯をお供えし、職員と一緒に手を合わせることもある。畑仕事や草取りをしたり、その人の希望に合わせ、好みの場所でゆったり過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服、好きなバック、ヘアスタイルなどのおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫、下ごしらえ、食器洗い、食器ふき、テーブル拭きなど手分けしてできることに参加できている。	ユニット毎にメニューを決め、利用者も参加して食事作りを行っている。地域の方から野菜等の差し入れも多い。誕生会などの行事食では、利用者の希望を取り入れた特別食を提供している。山菜などを採って食べたり、回転寿司に出掛けたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給はできるだけ多くして、その日ごとに記録している。不足している場合は本人の持病や好みを考え、職員で話し合い摂取してもらうよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた声がけや見守り、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンや習慣に合わせた支援をしている。体調の悪い時は、夜間のみポータブルトイレを使用している。	一人一人の排泄パターンを把握し、様子を見て、見守り介助など、自立を支援している。殆どの方が自分でトイレへ向かっている。両ユニットで布パンツが4名で他の方はリハビリパンツにパットを併用し、オムツの使用の利用者はいない。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の状態を職員、看護師が共有し、食事、水分、運動を働きかけ、必要な場合は看護師に相談、服薬調整や受診をするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が気持ち良く入浴できるよう、声かけのタイミングや言葉など職員で情報提供し合い工夫している。	毎日入浴出来るよう準備し、失禁、通院前を含め、利用者は週2回以上入浴している。入浴を強く嫌う人はなく、一人入浴、長湯、同性介助など、希望に沿って個別に対応している。冬季間は脱衣所を暖かくし、季節に応じ菖蒲湯や柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の状態の変化や本人の希望に合わせ、気持ちよく休息できるよう、室温や明るさを考えた環境づくりを心がけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の把握、臨時薬の内容確認を行い、通院記録、申し送り、看護師の連絡ファイルで確認し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、食器やテーブル拭きなどの役割を持つことで達成感や満足感を味わってもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と家の帰り、畑の草取りをしたり、病院の帰りに家に立ち寄りたりしている。施設では、一人ひとりの状態に合わせ、必要に応じて場所や日にちを変更して全員が参加できるよう努めている。散歩やドライブで地域の方との会話や挨拶ができるよう支援している。	穏やかな日には、周辺の散歩や玄関先で日向ぼっこをしている。畑作業や駐車場の草取り、近くの商店へのおやつや買出し、栗拾い、柿の収穫のほか、紅葉鑑賞、道の駅での外食などのドライブにも出かけており、戸外へ出る機会は多い。家族と外出や外泊、法事へ出席する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば少額を自分で管理して、ドライブ先や近所の商店に行き買い物できるよう支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいる家族と電話で話したり、手紙をくれる家族もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や壁の飾りつけ等で季節感を出し、一人ひとりの過ごし方や好みを尊重し、快適な温度や明るさ、清潔な空間づくりに努めている。	ホール兼食堂は高台にあり、大きな引き戸から光が差し込み、明るい色調の壁には季節を感じる飾りが貼付され、清潔感がある。食事用テーブル、ソファが配置され、利用者は、テレビ、趣味、ゲーム、体操など、思い思いの場所で寛いでいる。温度はエアコン、加湿器で適正に管理され、快適な生活環境となっている。散歩で採ってきた花が飾られ、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたり、廊下にイスやテーブルを置き、一人で過ごしたり利用者同士で会話を楽しめるような空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用しているものや、テレビ、仏壇、家族の写真など、本人が居心地よく過ごせるように努めている。	居室には、エアコン、ベッド、チェストと洗面所(1箇所)が設置されている。テレビ、仏壇、家族写真、花など、利用者の意向に沿って、思い出の品などが持ち込まれ、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どんな身体状態の方でも安全に過ごせるよう、手すりの設置や歩行の妨げにならないよう家具の配置に工夫している。		